

全国助産所分娩基本データ収集システム 2023年 集計結果報告

今村理恵子

日本助産師会 助産所部会長

はじめに

全国助産所分娩基本データ収集システム（以下、ITシステム）は2013年4月より開始され、2020年には項目を絞り新システムとなりました。2024年第80回日本助産師学会において2013～2023年までの集大成として、「全国助産所分娩基本データ収集システム集計結果」のタイトルで、ポスター発表されました。内容は「2013～2023年に助産所の管理下でITシステムに登録された周産期基本データ42,864件のうち欠損データのない37,740件を集計しました。集計内容は分娩時の母親の年齢、分娩数、分娩場所、アプガースコア（1分後・5分後）、会陰裂傷数、児の栄養方法（1週間後、1か月後）である」というものでした。

本年度はITシステムの大規模リニューアルの実施が決定され、「全国助産所分娩基本データ収集プロジェクト特別委員会」が結成されました。データ収集の目的は「助産所における分娩の全体像を把握するために必要なデータの収集を、安全かつ即時的に行う」「助産所における分娩について、その安全性や特性を示すデータを収集し、政策提言に活用する」としています。

本稿では2023年分を報告いたします。データ分析期間のITシステムの利用者は、本会所属の助産所

の79.0%（2023年12月現在）でした。

集計方法

2023年1月1日～12月31日に助産所の管理下で分娩され、ITシステムに登録されたデータ2,850件のうち、データ欠損のない2,286件の集計結果となります。

集計結果

1. 妊産婦の背景

分娩歴は、初産婦463人（20.25%）、経産婦1,823人（79.75%）でした。1回経産婦893人（39.06%）で最も多く、次いで2回経産婦が597人（26.12%）、頻産婦とされる5回以上の経産婦が45人（1.97%）でした。昨年とほぼ同様の分布でした（表1）。

年代別で見ると、初産婦は20代が最も多く56.1%で、次いで30代が40.4%でした。経産婦は30代が最も多く70.5%、次いで20代が21.3%でした。

初産婦の平均年齢は29.0歳（±4.75）、経産婦は33.3歳（±4.64）でした。35歳未満は、初産婦86.4%、経産婦57.8%でした（表2）。

2. 妊娠中に異常が認められた件数について

妊娠中に異常が認められたのは、初産婦1.5%、経産婦1.3%でした。その内訳はGBS陽性が3.5割を

表1 分娩回数

経産回数	件数	%
0回	463	20.25%
1回	893	39.06%
2回	597	26.12%
3回	219	9.58%
4回	69	3.02%
5回以上	45	1.97%
合計	2,286	100.00%

表2 分娩時の母の年齢

初産婦年齢	人数	%	経産婦年齢	人数	%
～19歳	9	1.9%	～19歳	1	0.1%
20～24歳	64	13.8%	20～24歳	67	3.7%
25～29歳	196	42.3%	25～29歳	320	17.6%
30～34歳	131	28.3%	30～34歳	665	36.5%
35～39歳	56	12.1%	35～39歳	619	34.0%
40歳～	7	1.5%	40歳～	151	8.3%
合計	463	100.0%	合計	1823	100.0%
35歳未満	400	86.4%	35歳未満	1053	57.8%

占め、母体合併症と貧血併せて1.5割、その他の5割は選択肢外となっております。

3. 分娩期について

分娩場所については助産所87.1%，自宅10.3%，オープンシステム2.3%でした。

分娩所要時間の平均は初産婦で12時間33分，うち30時間以上を要したのが4.5%でした。経産婦は平均5時間39分で，うち15時間以上を要したのが3.1%でした。分娩時の妊娠週数は昨年同様39週が最も多く37.80%，次いで40週が34.30%でした（図1）。

前期破水は，初産婦17.9%，経産婦10.6%に認めました。

分娩時の出血量の平均は初産婦360ml，経産婦347mlでした。分娩時の出血量が500ml以上であったのは，初産婦19.4%，経産婦17.6%でした。会陰裂傷は初産婦で，なし42.3%，経産婦で，なし66.9%でした（図2）。

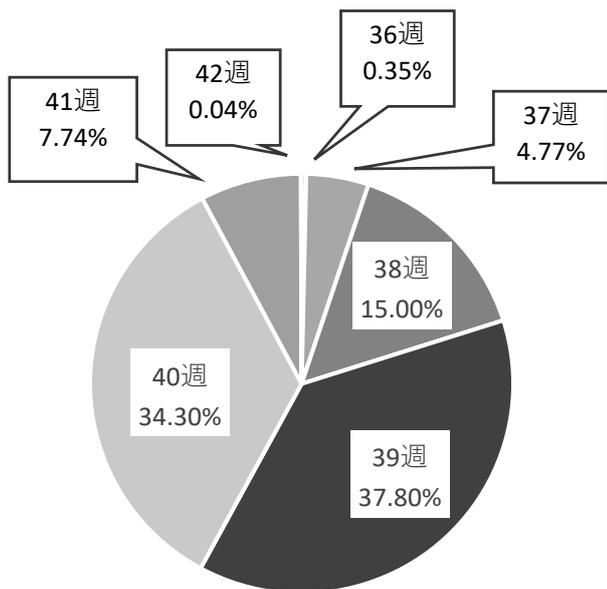


図1 分娩時の妊娠週数

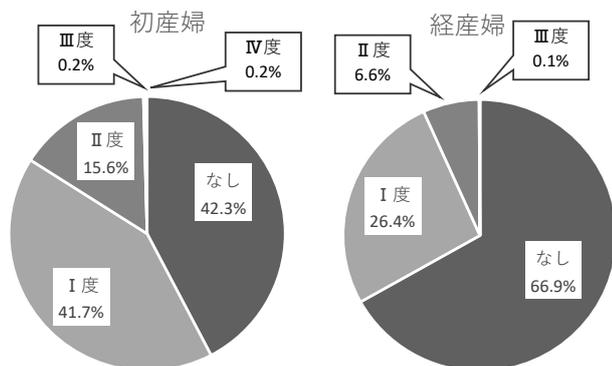


図2 会陰裂傷

分娩時の立ち会いは初産婦で92.0%あり，経産婦は89.2%でした。内訳（複数回答）はパートナーが一番多く，次いで上の子，その他となっていました。

4. 新生児について

出生時体重の平均は男児3,185.1g（±346.7），女児3,091.6g（±345.2）でした。出生5分後のアプガールスコアは，8点以上が99.7%でした。

5. 栄養方法

おおむね1週間時点での児の栄養は，初産婦で母乳のみが49.89%，混合35.42%，人工乳0.22%でした（図3）。経産婦で母乳のみが61.55%，混合25.34%，人工乳0.82%でした（図4）。おおむね1か月健診の時点では，初産婦で母乳のみ55.08%，混合

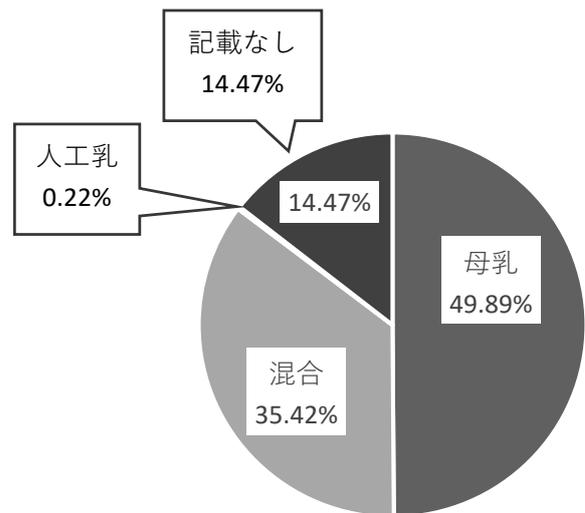


図3 栄養方法（初産婦）

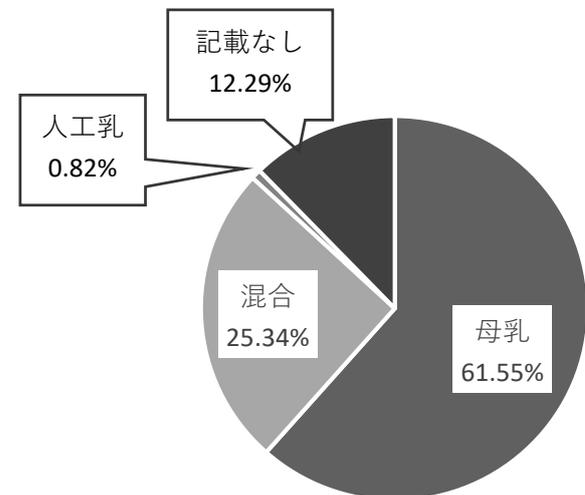


図4 栄養方法（経産婦）

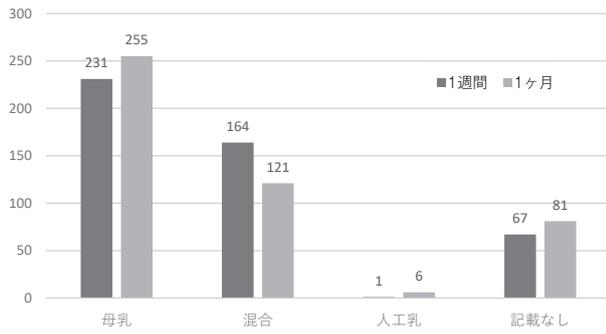


図5 おおむね1週間および1か月時点での栄養方法（初産婦）

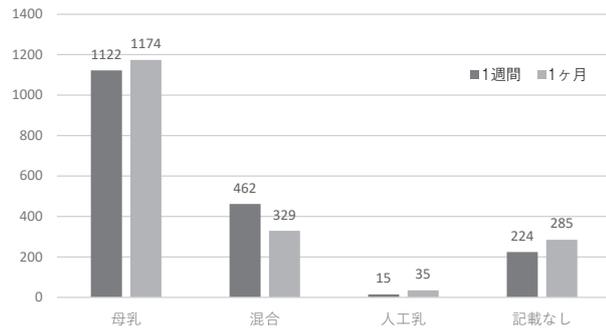


図6 おおむね1週間および1か月時点での栄養方法（経産婦）

26.13%，人工乳1.30%，経産婦では，母乳のみ64.40%，混合18.05%，人工乳1.92%でした。初産婦・経産婦とも「おおむね1週間」の時点よりも「おおむね1か月」の時点で母乳栄養率が上がっていま

した（図5，6）。

まとめ

助産所部会会員の方々には，お忙しいなか，データ入力にご協力いただき感謝いたします。

昨年より登録データが877件減少しました。助産所のお産が減少していると推測されます。その中でも，全体的な傾向は昨年，一昨年とほぼ同じでした。

本年度はITシステムの大規模リニューアルがあります。今までに見えていた改善点や，政策提言などに有効な情報を検討していきます。

今後も助産所の分娩は安全に行われており，かつ母乳育児推進，少子化対策に貢献していると言えるようなデータ収集を実施していきたいと思えます。今後ともご協力をお願いいたします。集計結果は，本会HPでもご覧いただけます。（<https://www.midwife.or.jp/midwife/safety.html>）

現システムでは，分娩基本データについても都道府県ごとに所属会員による集積データの活用が可能です。ぜひ，ご活用ください。また，日本助産師会からの情報を確実に得ていただくためにも，メールアドレスの変更を会員マイページよりお願いいたします。